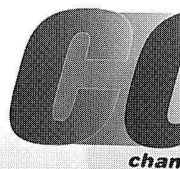


龍馬プロジェクトとCGSS

じっく
日本



はじめに

平成25年4月29日(昭和の日)、チャンネルグランドストラテジー(以下CGS)というインターネットチャンネルを開設しました。

月曜日から土曜日まで、歴史や神道、経済、哲学といったテーマの番組を、ユーチューブとニコニコ動画を通じて配信し、多いものでは1番組70000件ほどのアクセスが上がるようになっていきます(平成25年9月現在)。

今回は、私がなぜこのCGSを開設したか、何を目指しているのかをお話したいと思います。

海外経験で変わった意識

私は平成19年5月から平成24年12月まで、大阪の吹田市で市議会議員をしておりました。CGSの開設への思いを語るには、私がなぜ政治家となり5年半でどんな活動をしてきたか、ということからお話を始めなければなりません。

私が政治家を志したきっかけは21歳の時の1年間の海外経験です。当時、私はアメリカ、ヨーロッパ、アフリカと世界18か国を回りました。その中で世界の同世代の若者と出会い、彼らがどれだけハングリーに生

きているか、自分たちの国に誇りを持っているかを体

感しました。また、貧しい国をみて、日本の豊かさとして。その反面、それまで何の感謝もせず、自分のことだけしか考えていなかったことを反省し、自分を含めた日本の若者や日本の未来に危機感をもちました。

日本に帰国し、なぜ日本の若者の意識がこうも幼くなっているのか、挑戦心を失っているのかを考えるため、日本の歴史を学び、多くの人の意見を聞きました。

そこで、日本が戦争に負けて、国のしくみや教育を変えられ、国の外交や国防を他国に任せきりにしてきたことに大きな原因があると思に至りました。「このままではいけない」「若者の意識を変えなければ!」と考えたのが、私が政治家を目指したきっかけです。

大学卒業後は、一旦弁護士を目指し、そこから政治の世界へと考えていました。しかし、実家の家業の倒産などがあり、心が折れて、一時は高校で教鞭をとり、そのまま先生をやっているかと考えたこともあり。それでも、学生時代の「気づき」を消すことはできず、26歳で吹田市にある法科大学院に進学し、卒業と同時に29歳で吹田市の市議会議員に立候補し、当選しました。地盤、看板、鞆(組織、知名度、お金) 何もない中のまぐれの当選でしたが、選挙の中で私が一貫して訴えたのは「教育を通じた若者の意識改革」でした。

教育維新の会と龍馬プロジェクト

私は当選後、吹田市の管轄である市内53の公立小中学校をすべて訪問し、現場の課題や声を集めました。

その中で子供にも親にも日本人としての価値観や人生の理念が欠けていると感じ、議会では日の丸や君が代の問題はもちろん、偉人伝や道徳の教育・親学の推進、立志式の開催、いわゆる慰安婦や沖縄集団自決の問題の取り扱いなど様々な提案をしました。

けれども、市長が元社会党で議会の半数が共産党と民主党といった状況の中では、私の提案は何一つ形になりませんでした。

一議員の無力さに挫けそうになった時、テレビをつけるとそのこには橋下徹知事が、「大阪の教育を変えろ!」と息巻いていました。私は、この人とならやるかもしれないと考えて平成20年の年末に彼に手紙を書いて、大阪府内の教育に想いのある若手議員を30人ほど集めるので、党派を超えた教育提言をする会を作りましょう、と提案しました。そこで平成21年に立ち上げたのが、「大阪教育維新を市町村からはじめる会(略称:教育維新の会)」です。

我々は、単独で議会提案しても実現されないことを知事と連携しチームでやってみようと考え、それまで



靖国神社前で整列する龍馬プロジェクトメンバー

議会提案してきたことを会の活動方針に加えようとし、その後、1年間で、学力テストの公開などを形にしていきました。

しかし、平成21年の年末ごろに今の「大阪維新の会」を結成する話が知事の方からあり、そのメンバーの名前や政策構想を聞きましたが、とても一緒にやれる内容ではなかったなのでその会には参加できないとお断りしました。私たちは、大阪維新の会とは別に現状の教育の会を継続していくことを提案しましたが、物別れに終わりました。

私は橋下知事に対し、「選挙を通じて権力闘争にするなら、中途半端な府議会議員と組むのではなく、全国に号令をかけ

て想いある若い人材を集めて政党を作った方がいい、ONE大阪構想（のちの大阪都構想）だけでは大阪は良くなるらない。全国を回って想いある政治家を探す」と伝え、別れました。

そして、平成22年1月から5月まで全国を行脚し、私の課題である「若者の意識の改革」や「国の政治ビジョンの提案」を訴えて仲間を集め、6月に「龍馬プロジェクト全国会」を立ち上げました。

メディアの力

それからは、龍馬プロジェクトの活動を進めながら、平成23年4月の吹田市長選挙の準備を進めてきました。元社会党の市長を保守系の市長に替え、吹田市を文教都市にして全国モデルになる教育を進めるつもりでいたのです。そこで仲間の吹田市議を市長候補に押し上げて選挙を戦う準備を進めていきました。すると選挙の直前、社会党→自民党→維新の会と渡り歩いてきた府議会議員が橋下知事の推薦をもって、対抗馬で市長選に出てきました。そしてこの候補者は、我々が「教育維新の会」で訴えようとしていた教育観など全く持ち合わせていない人物だったのです。すべて「甘い」と言われればそれで終わりですが、テレビでは「政策や理念が大切」とか「古いしがらみを破る」などと

言いながら、この人たちは選挙に勝つては何でもいいんだな、ということがこの時わかりました。以来私は一貫して「大阪維新の会に騙されるな」と言い続けることになりました。

しかし、そんな経緯で出てきた候補者であっても、メディアに毎日登場する橋下知事の人気で選挙には勝ってしまうのです（当選した吹田市長は支援者との金銭的癒着を指摘され現在市議会の100条委員会にかけられている）。その後の大阪市長と知事のW選挙でも同様でしたが、候補者や政策の中身ではなく、テレビなどのイメージだけで投票行動が決まってしまう。「選挙はメディアが作っている」そう感じました。

このメディアから変えていかないと、正しい情報は発信できないし、国防や教育といった国の根幹を支えるような政策の大切さが国民に伝えられない、そう痛切に感じました。大きな挫折でした。

ネットの可能性

こうして平成23年の吹田市長選挙で、仲間を落選させてしまった私は次の目標を探すのに必死でした。自分分は全国を回ってもっと同じ考えの仲間を集めなければならぬし、自分だけのんびりと市議会議員をやっているのは信義にもとる、自分も国政に挑戦し、国政

で教育の問題を訴えようと、がむしゃらに働きました。

しかし、どれだけ一人でもがいても、私がかつて想いや考えを伝えられるのは限られた数の人です。一緒に活動する龍馬プロジェクトのメンバーにも負担をかけるばかりで、申し訳ない気持ちがありました。

そんな平成24年、とある会で親交のあった倉山満氏に誘っていただき、彼がキャスターを務めるネット番組に出演させていただきました。それまでもこれからはネット選挙だと考えて、平成23年の吹田市長選挙ではネットで動画の配信をしたことがあったのですが、ほとんど再生がなかったもので、ネット動画なんてあまり意味がないだろうと思っていました。しかし、倉山氏の番組に出た後、様々な反響を頂き、その再生数をみるとかなりの数に上っていましたし、またコメントなどを見ていると皆さん政治への関心が高く、勉強もされていることがわかりました。この時に初めて、ネット動画の可能性を感じ、こうしたところから我々の考えていることや活動を配信していけば、マスコミのおかしな世論誘導などを食い止め、視聴者の意識レベルを高められるかもしれないと感じたのです。

その後、大阪維新の会に一矢報いたいなどの様々な思いがあり、私は平成24年12月の衆議院選挙に立候補し落選しました。選挙の2週間前に急遽選挙区を変えての無謀な挑戦で支援者の皆様にはご迷惑をかけたの

ですが、これまでの活動の総括として筋をとおして想いを訴えられ、私は得心して区切りをつけることができました。

CGSの開設

こうしてフリーになった平成25年1月から、会社設立の準備をしネット動画チャンネルの構想を組み立てました。私にネット動画の可能性を教えてくださいました倉山満氏をはじめ、私のこれまでの活動に理解を示してくださる応援者の協力があり、2月11日、株式会社グランドストラテジーが設立でき、4月29日からCGSの配信が始まりました。

これまで長々と説明してきた私の経験から、CGSにはいろいろな思いが詰まっています。まず、海外での経験から、テレビや教科書では学べない日本を知ってもらい若者の意識を変えていきたいという大きな想いが根底にあります。しかも、それは真面目で堅いものではなく、若い世代がマンガでも読む感覚で、気軽に面白く見れるものでなくてはならないと考えました。

今まで、政治や社会に関心を持たなかった層にも見てもらえるものでなければ、すでにわかった人と同じ情報を流しても社会的意義がないと思ったのです。

次に、政治活動の挫折の中から、自分たちが正しい

と思う政治の情報を発信できる政治性を持ったメディアにもしたいとも考えました。よって、スポンサーの皆様にも番組内容や編集に関しては、会社側に一任していただき、タブーのない配信を維持していきたいと考えています。

そして、龍馬プロジェクトで全国の仲間を集めて運営してきた経験から、ネットを通じて情報を配信することで、メンバーにもそれぞれ地域に居ながらにして歴史などを勉強してもらい、チームの想いをすり合わせていきたいと考えました。ネットでの勉強ならわざわざ集まらなくても、好きな場所で空いた時間に学ぶことができます。さらには、なかなか広く思いを訴える機会を持たない地方議員の皆さんの活動を世の中に伝える番組もつくり、有権者の皆さんに政治家の葛藤などもお伝えしたいと思いました。

私の様々な経験から、その行き着くところとしてある意味必然的にCGSの配信が始まっています。

CGSの目指すもの

68年前、日本は世界を相手に戦った戦争に敗れました。そして約7年に及ぶ占領政策の下、徹底的な弱体化が図られました。憲法の改悪やWGIPなどの政策に加え、歴史と教育を変えられました。まず、これ

がどれほどのことだったのかということを知るところから我々は学び直さねばなりません。

これは何も右傾化することでも、軍国国家にするためでもなく、日本の若者に日本人の背骨をしっかりと持ってもらい、一人一人が何のために生き、何のために働くかという使命感をもって一隅を照らす人生を送ってもらうためにすることです。

先人のおかげで、日本はなんとか国としての体裁を残すことができ、経済的には豊かさを保持しています。

しかし、世界政治のプレーヤーではありません。せんし、経済的優位性も今後の人口減少や国民一人一人の生産性の減退で、どこまで維持できるかわかりません。ゆるい教育の中で育った若者は、優しき真面目ですが、国際社会に打って出た

かに生き残れるバイタリティーや戦略が乏しいと感じます。

こうした中で、今の我々に必要なことは、歴史や伝統を学び自分のタテ軸を持つこと、そして世界の権力構造や現状を知り、ネットワークや見識というヨコ軸を持つこと、そしてできた自分の座標軸からのびる志をもって、日々一隅を照らす生き方をするということではないでしょうか。

私は、こうした想いに共感して下さる皆さんの協力を頂きながら、CGSを運営しています。そして一人でも多くの方に「気づき」を持っていただき、一人の人生戦略を持つてもらいたいです。その目に見えない「気づき」や「戦略」が集まって、いずれこの国の現状を変えていく「大戦略」が生まれてくると信じています。

政治家をやって痛感したのは、政治のレベルは民意のレベルと比例するという事です。良い政治をしようと思えば、よき民意を形成していかねばなりません。そしてそのよき民意とは上から与えるものではなく、皆さんの「気づき」から醸成されるものだと思えます。気付いた人から少しづつ変わっていく、そんな人たちがネットやリアルの世界でつながっていく、CGSはそんな人を繋ぐ役割を担っていききたいと思うのです。



筆者と大阪維新の会代表の橋下徹氏が会議をしている様子